

株主資本等変動計算書の作成手順

< 勘定奉行21シリーズ全般 >

勘定奉行シリーズでは、印刷様式として純資産の各項目を縦に並べる縦様式と、横に並べる横様式の両方に
対応しています。

■ 株主資本等変動計算書の作成

[決算報告書 条件設定] ダイアログボックス上の<株主資本等...> ボタンを押すと、「株主資本等変動
計算書」のダイアログボックスが開きます。

株主資本変動計算書では、貸借対照表の純資産の部の当会計期間における変動額のうち、主に株主資本の
増減内容を、変動事由ごとに出力します。

(株主資本以外の変動事由ごとの出力においては、印刷条件の設定により可能です。)

以下の手順で作成します。

- ① 決算報告書の貸借対照表を印刷し、「純資産の部」の科目を確認する
- ② ①の科目について、元帳を出力し、発生金額の内容を把握する
- ③ 株主資本等変動計算書の入力画面で、②の仕訳内容から変動事由ごとに金額を入力する
- ④ 株主資本等変動計算書を印刷する

① 決算報告書の貸借対照表を印刷し「純資産の部」の科目を確認します。

1. [日常処理1]－[決算報告書]－[決算報告書] メニューを開きます。

[決算報告書 条件設定] ダイアログボックスで、[集計対象] グループを「**全社**」、
[印刷形式] グループで「**貸借対照表**」のみにチェックを付けます。

2. [集計期間] で、株主資本等変動計算書を作成する集計期間を指定して、貸借対照表を印刷し、
「純資産の部」の科目を確認します。

「純資産の部」に表示される科目を確認します。

科目	金額
株主資本	450,000,000
【資本金】	450,000,000
【資本剰余金】	10,000,000
資本準備金	10,000,000
【利益剰余金】	20,000,000
利益準備金	6,000,000
その他利益剰余金	14,000,000
剰余金	6,000,000
繰越利益剰余金	6,000,000
純資産の部合計	480,000,000
負債・純資産の部合計	480,000,000

② ①の科目について元帳を出力し、発生金額の内容を把握します。

1. [日常処理1]－[元帳処理]－[元帳問い合わせ] メニューを開きます。
[元帳問い合わせ 範囲・条件入力] ダイアログボックスで、ベースを「**全社**」とし、
①と同じ集計期間を指定します。

決算報告書 条件設定

集計対象
☒ 全社 ☐ 部門 ☐ グループ

集計形式
☐ 合計 ☐ 個別

集計期間
☒ 当期 ☐ 前期 ☐ 二期間

☐ 発生 ☒ 残高 ☐ 月範囲(M)
 23年 4月 ~ 23年 9月

元帳問い合わせ 範囲・条件入力

元帳種類
☒ 総勘定元帳 ☐ 補助元帳

ベース
☒ 全社 ☐ 部門 ☐ グループ

コード
 部門コード
 総勘定科目コード 400 資本金
 補助科目コード

日付範囲指定
 23年 4月 1日 ~ 23年 9月 30日

検索条件
☐ する ☒ しない

税処理
☒ 税抜 ☐ 税込

☒ コード表示 ☒ 税区分・事業区分表示
☐ 消費税金額内訳表示
☐ 相手科目を個別表示

集計終了日を入力して下さい。

注意

貸借対照表の集計期間で「二期間」や「前期」を選択した場合、前期分の元帳については、
[機能]－[会社選択] メニューで、前年度の会社データに切り替えて出力します。

2. 総勘定科目コード欄で「純資産の部」の で囲まれた科目を指定し、元帳をそれぞれ印刷します。

純 資 産 の 部	
【株主資本】	【 480,000,000】
【 資本金 】	【 450,000,000】
【資本剰余金】	【 10,000,000】
資本準備金	10,000,000
【利益剰余金】	【 20,000,000】
利益準備金	6,500,000
(その他利益剰余金)	(13,500,000)
別途積立金	5,500,000
繰越利益剰余金	8,000,000

※印刷される科目は一例です。

③ 決算報告書の株主資本等変動計算書の入力画面で、②の仕訳内容から、変動事由ごとに金額を入力します。

1. [日常処理1] - [決算報告書] - [決算報告書] メニューを開きます。

[決算報告書 条件設定] ダイアログボックスで、①で設定した条件はそのままとし、[印刷形式] グループの「株主資本等変動計算書」にチェックを付け、〈株主資本等...〉 ボタンをクリックします。

2. 株主資本等変動計算書の入力画面が表示されます。

①で確認した変動事由と金額を科目ごとに入力します。



- ◆変動事由の途中に1行追加する場合は、〈行挿入...〉 ボタンを押します。
- ◆金額が「0」の変動事由および金額は、印刷されません。



[決算報告書 条件設定] ダイアログボックスの[集計期間]グループで「二期間」を選択した場合は、株主資本等変動計算書の対象期間において、「当期」「前期」を切り替えて、二期間分の情報を入力します。

3. すべての科目で入力終了したら、〈閉じる〉 (F12 キー) ボタンをクリックします。

<株主資本等変動計算書への入力例：剰余金の処分>

繰越利益剰余金 1,100,000,000 / 利益準備金 100,000,000
 / 当座預金 1,000,000,000

430 繰越利益剰余金

【総勘定元帳】
Page: 1
【税 抜】 平成23年 9月25日

OBC商事 株式会社

年月日	伝票No	相手科目	借方	貸方	残高
		繰越			3,000,000,000
230525	50	415 利益準備金	100,000,000		2,900,000,000
	50	110 当座預金	1,000,000,000		1,900,000,000
		5月計	1,100,000,000	0	

科目を一致させます。

株主資本等変動計算書にて金額を入力する際の符号（プラス/マイナス）は、元帳において、金額が借方に出力されているか、貸方に出力されているかで判断できます。

「繰越利益剰余金」が減少したため、該当する変動事由へマイナス金額を入力します。

科目名	当期変動額	内訳入力合計	内訳未入力
繰越利益剰余金	1,657,142,858	1,657,142,858	

科目名	変動事由	当期変動額
繰越利益剰余金	当期純利益	
	剰余金（その他資本剰余金）の配当	
	剰余金（その他利益剰余金）の配当	0
	剰余金の配当	-1,000,000,000
	剰余金の配当に伴う積立て	-100,000,000
	別途積立金の積立て	0
	別途積立金の取崩し	0
	圧縮積立金の積立て	0

[F4] [F5] [F6] [F7] [F8] [F9] [F10] [F11] [F12]
 次画面 前画面 行削除 行挿入 開じる

「その他資本剰余金・その他利益剰余金」と「評価・換算差額等」の科目については、[決算報告書 印刷条件]ダイアログボックスの「株主資本変動計算書」タブで、変動事由を入力する科目の単位を切り替えることができます。

決算報告書 印刷条件

基本設定 株主資本等変動計算書

科目設定

合計欄の印刷
☐ 印刷しない ☒ 印刷する

内訳科目の印刷
☒ その他資本剰余金・その他利益剰余金 ☐ 総勘定科目ごとに印刷する
☐ 総勘定科目ごとに印刷しない

「総勘定科目ごとに印刷しない」の場合、計科目単位で変動事由を入力します。

株主資本等変動計算書

自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日

対象期間	当期	科目名	当期変動額	内訳入力合計
		その他利益剰余金	1,657,142,858	1,657,142,858

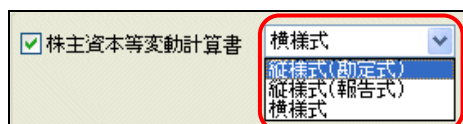
科目名	変動事由	当期変動額
その他利益剰余金	当期純利益	
	剰余金（その他資本剰余金）の配当	0
	剰余金（その他利益剰余金）の配当	0
	剰余金の配当	-1,000,000,000
	剰余金の配当に伴う積立て	-100,000,000
	別途積立金の積立て	0
	別途積立金の取崩し	0
	圧縮積立金の積立て	0
	圧縮積立金の取崩し	0

「その他利益剰余金」での当期変動額を考えると、剰余金の配当によって繰越利益剰余金が減少し、利益準備金などが増加したという内容になります。

[F1] [F2] [F3] [F4] [F5] [F6] [F7] [F8] [F9] [F10] [F11] [F12]
 ヘルプ 上移動 下移動 次画面 前画面 行削除 行挿入 開じる
 変動額を入力して下さい。

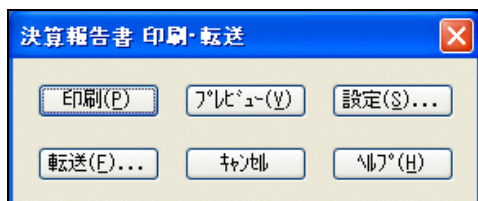
④ 株主資本等変動計算書を印刷します。

1. [決算報告書 条件設定]ダイアログボックスに戻りますので、出力形式を「縦様式(勘定式)」
「縦様式(報告式)」 「横様式」から選択し、<OK>ボタンをクリックします。



集計対象で「二期間」を選択した場合は、出力形式の指定は不要です。

2. [決算報告書 印刷・転送] ダイアログボックスが表示され、株主資本等変動計算書を出力できます。



注意

出力形式で「横様式」を選択し、かつ他の帳票も同時に出力する場合は、以下の画面が表示されます。

「縦向き印刷」の帳票と「横向き印刷」の帳票と、別々に出力します。

